

衛研第1-37号  
平成27年12月9日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493-59-9325  
FAX 0493-59-9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

### 埼玉県内情報 平成 27 年 第 49 週（平成 27 年 11 月 30 日～平成 27 年 12 月 6 日）

#### 今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は腸管出血性大腸菌感染症 2 人の届出があった。四類感染症はレジオネラ症 2 人の届出があった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 人、急性脳炎 2 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 3 人、梅毒 4 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、RSウイルス感染症(1.69 2.45)の定点当たり報告数は、前週より大きく増加し、同時期に大きな流行が観察された前年(48～50 週平均：2.45)と同水準になった。保健所別では、加須(2.50 4.83)、春日部(1.17 3.00)、坂戸(0.67 2.50)保健所管内で大きく増加し、狭山(3.76)、本庄(3.75)、鴻巣(3.67)保健所管内からの報告が多い。年齢別では 1 歳以下で全体の 71.8%を占めている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎(2.90 3.74)の定点当たり報告数は、前週より大きく増加した。保健所別では、熊谷(6.33 8.44)、東松山(2.60 5.00)保健所管内で大きく増加し、川越市(6.63)保健所管内からの報告が多い。非流行期であった 2012 年～2014 年に比べ報告数の多い状況が続いている流行性耳下腺炎(0.92 1.16)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、さいたま市(1.15 2.41)保健所管内で大きく増加し、幸手(3.11)、草加(2.00)保健所管内からの報告が多い。咽頭結膜熱(0.52 0.73)及び感染性胃腸炎(6.58 8.88)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、前者は坂戸(2.00)、狭山(1.35)、春日部(1.17)保健所管内からの報告が多く、後者は川口(14.27)、朝霞(14.20)、熊谷(12.11)保健所管内からの報告が多い。伝染性紅斑(0.89 1.11)の定点当たり報告数は前週より微増し、漸増傾向にある。保健所別では、狭山(1.65 2.76)保健所管内で大きく増加し、坂戸(2.83)保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告対象疾患では、急性出血性結膜炎 1 人、流行性角結膜炎 41 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、無菌性髄膜炎 1 人、マイコプラズマ肺炎 10 人(前週 7 人)で後者は前週に引き続き増加した。

#### <全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 人（病型 患者 2 人、血清型 O111 1 人、O26 1 人）
四類感染症	レジオネラ症	2 人（病型 肺炎型 2 人）
五類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人（菌種 <i>Enterobacter</i> sp.）
	急性脳炎	2 人（病原体不明 2 人）
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人（病型 孤発性）
	侵襲性肺炎球菌感染症	3 人
	梅毒	4 人（病型 早期顕症 期 2 人、早期顕症 期 1 人 無症状病原体保有者 1 人）

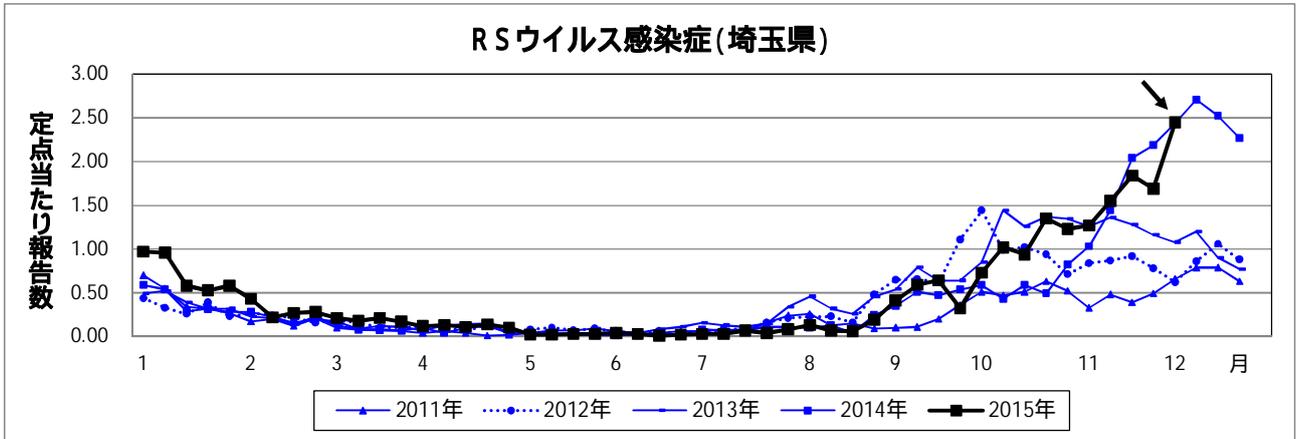
1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。  
衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613  
e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

< 定点把握対象疾患の患者情報 >

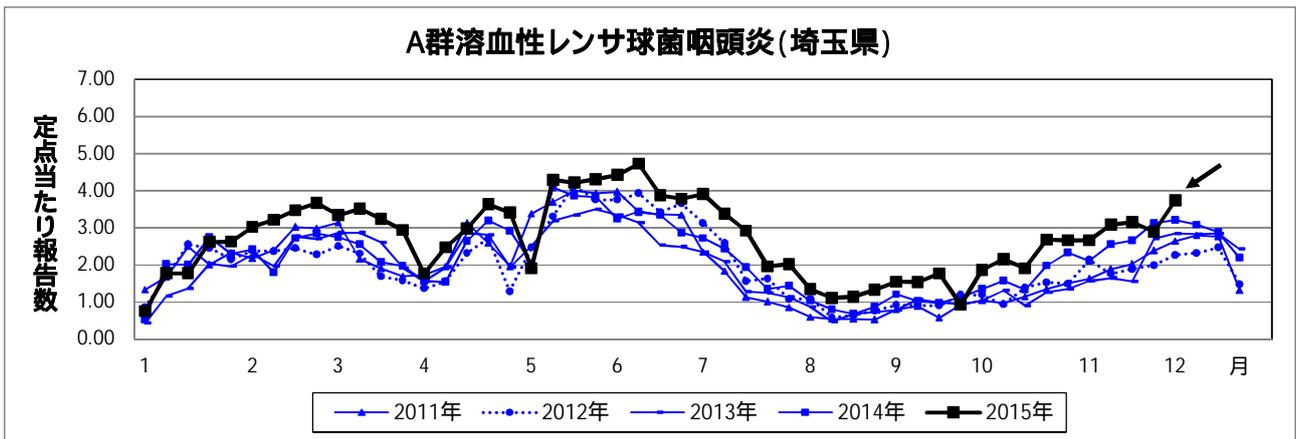
**RSウイルス感染症**

県内全保健所から報告があった。保健所別では、加須(4.83)、狭山(3.76)、本庄(3.75)、鴻巣(3.67)保健所管内からの報告が多い。



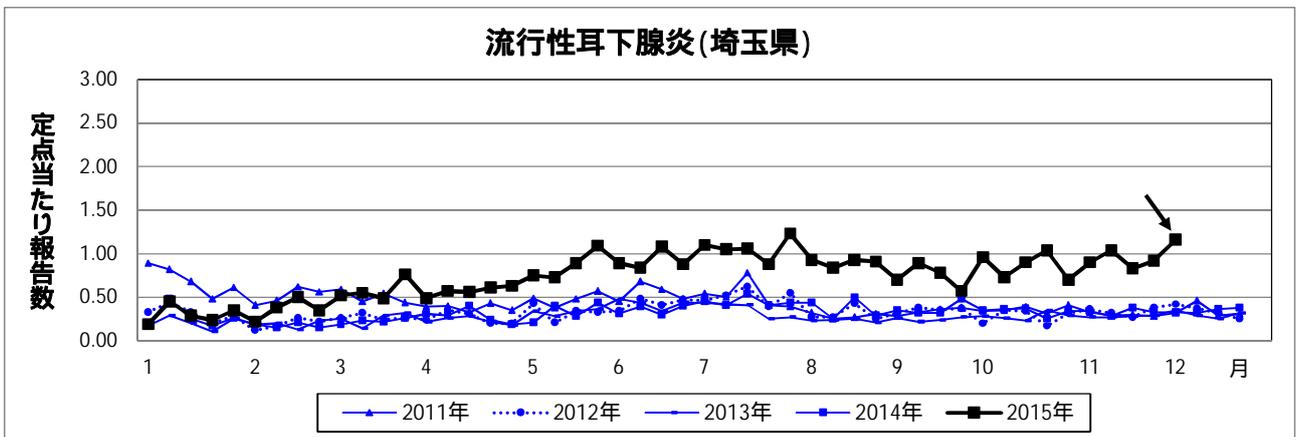
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

県内全保健所から報告があった。保健所別では、熊谷(8.44)、川越市(6.63)、東松山(5.00)保健所管内からの報告が多い。



**流行性耳下腺炎**

秩父、本庄、川越市保健所を除く県内 13 保健所から報告があった。保健所別では、幸手(3.11)、さいたま市(2.41)、草加(2.00)保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第49週)

(2015年12月8日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢		6	パラチフス		1
腸管出血性大腸菌感染症	2	164			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		6	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
ウエストナイル熱			ニパウイルス感染症		
A型肝炎		16	日本紅斑熱		
エキノкокクス症			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		
キャサヌル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
サル痘			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兎病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱		1	レジオネラ症	2	83
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		13	ロッキー山紅斑熱		
東部ウマ脳炎					
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢		28	侵襲性肺炎球菌感染症	3	70
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		5	水痘*		7
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	39	先天性風しん症候群		
急性脳炎	2	26	梅毒	4	95
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		7
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	9	破傷風		2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		10	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群		32	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		7
ジアルジア症		4	風しん		8
侵襲性インフルエンザ菌感染症		11	麻しん		3
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	4			1

累計は診断日で集計

\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。



感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第49週 平成27年11月30日 ~ 平成27年12月6日)

	年齢別																				
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ #1	34	-	-	1	1	4	1	4	4	-	2	2	2	2	3	1	4	2	-	1	-
合計	34	-	-	1	1	4	1	4	4	-	2	2	2	2	3	1	4	2	-	1	-
RSウイルス感染症	394	78	81	124	66	26	8	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	394	78	81	124	66	26	8	7	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	117	-	7	22	13	11	29	11	9	5	2	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	602	-	-	16	24	41	78	83	77	75	65	41	80	2	20	-	-	-	-	-	-
合計	602	-	-	16	24	41	78	83	77	75	65	41	80	2	20	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,430	7	67	217	165	139	166	114	115	78	53	48	110	25	126	-	-	-	-	-	-
合計	1,430	7	67	217	165	139	166	114	115	78	53	48	110	25	126	-	-	-	-	-	-
水痘	185	3	13	12	11	17	29	20	18	24	18	7	13	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	185	3	13	12	11	17	29	20	18	24	18	7	13	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	34	-	1	9	3	8	5	3	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
合計	34	-	1	9	3	8	5	3	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	178	-	1	4	6	19	19	30	29	24	20	9	15	-	2	-	-	-	-	-	-
合計	178	-	1	4	6	19	19	30	29	24	20	9	15	-	2	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	99	1	34	56	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	99	1	34	56	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	-	-	1	-	1	2	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7	-	-	1	-	1	2	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	186	1	-	4	6	24	24	26	22	21	15	13	25	3	2	-	-	-	-	-	-
合計	186	1	-	4	6	24	24	26	22	21	15	13	25	3	2	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	41	-	-	1	2	1	1	5	-	-	-	1	3	1	3	12	4	2	3	2	-
合計	41	-	-	1	2	1	1	5	-	-	-	1	3	1	3	12	4	2	3	2	-
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	10	-	2	2	4	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	10	-	2	2	4	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

# 全国・関東情報 第 47 週

( 11月16日～11月22日 )

平成27年12月9日

インフルエンザの定点当たり報告数は第41週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(1.03)、秋田県(0.46)、福井県(0.44)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は17例と前週と比較して減少し、13都道府県から報告があった。

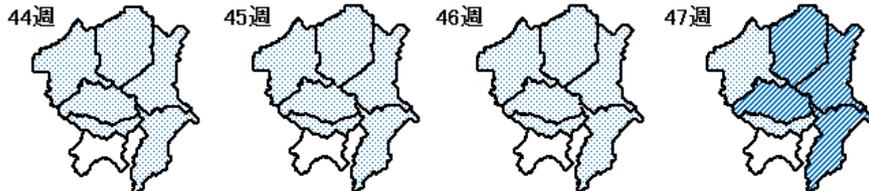
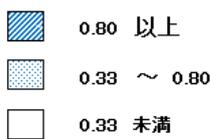
RSウイルス感染症の報告数は6,687例と2週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約66%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第42週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は鳥取県(1.63)、山形県(1.30)、新潟県(0.97)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第43週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は静岡県(5.53)、山形県(5.13)、鳥取県(4.89)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第40週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は大分県(14.97)、福井県(13.91)、宮崎県(13.08)である。水痘の定点当たり報告数は第42週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は島根県(1.04)、千葉県(0.95)、福島県(0.91)である。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は山口県(1.08)、北海道(0.99)、山梨県(0.96)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県(2.83)、熊本県(2.40)、山形県(2.17)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は佐賀県(2.96)、石川県(2.34)、沖縄県(2.03)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は富山県(3.00)、青森県(1.50)、石川県(1.40)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は増加した。11道県から18例報告があり、年齢別では0歳(3例)、1～4歳(10例)、5～9歳(4例)、60代(1例)であった。

## <関東情報>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、埼玉県(1.11)、茨城県(1.00)、栃木県(0.85)、千葉県(0.85)からの報告が多い。

### 伝染性紅斑



平成27年 47週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	919	293	24	5	31	45	34	99	55
	定点当たり	0.19	0.20	0.20	0.07	0.32	0.18	0.16	0.24	0.18
RSウイルス感染症	報告数	6,687	1,499	192	216	138	291	137	335	190
	定点当たり	2.13	1.62	2.56	4.50	2.30	1.84	1.05	1.29	0.98
咽頭結膜熱	報告数	1,477	391	20	6	13	91	78	109	74
	定点当たり	0.47	0.42	0.27	0.13	0.22	0.58	0.60	0.42	0.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	8,667	2,422	156	93	194	498	375	722	384
	定点当たり	2.76	2.62	2.08	1.94	3.23	3.15	2.86	2.79	1.99
感染性胃腸炎	報告数	22,494	6,429	432	113	429	1,070	791	2,063	1,531
	定点当たり	7.18	6.96	5.76	2.35	7.15	6.77	6.04	7.97	7.93
水痘	報告数	1,888	650	47	23	14	134	125	140	167
	定点当たり	0.60	0.70	0.63	0.48	0.23	0.85	0.95	0.54	0.87
手足口病	報告数	1,210	390	45	17	13	51	89	97	78
	定点当たり	0.39	0.42	0.60	0.35	0.22	0.32	0.68	0.37	0.40
伝染性紅斑	報告数	2,455	607	75	41	27	175	111	131	47
	定点当たり	0.78	0.66	1.00	0.85	0.45	1.11	0.85	0.51	0.24
突発性発しん	報告数	1,648	500	15	31	30	82	57	160	125
	定点当たり	0.53	0.54	0.20	0.65	0.50	0.52	0.44	0.62	0.65
百日咳	報告数	68	31	3	2	1	6	3	12	4
	定点当たり	0.02	0.03	0.04	0.04	0.02	0.04	0.02	0.05	0.02
ヘルパンギーナ	報告数	212	49	2	2	4	9	13	11	8
	定点当たり	0.07	0.05	0.03	0.04	0.07	0.06	0.10	0.04	0.04
流行性耳下腺炎	報告数	2,110	617	81	24	21	131	125	147	88
	定点当たり	0.67	0.67	1.08	0.50	0.35	0.83	0.95	0.57	0.46
急性出血性結膜炎	報告数	3	1	-	1	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.00	0.01	-	0.08	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	613	194	21	5	16	31	34	37	50
	定点当たり	0.90	0.99	1.24	0.42	1.14	0.76	1.10	0.97	1.16
細菌性髄膜炎 #2	報告数	14	2	-	-	-	-	2	-	-
	定点当たり	0.03	0.03	-	-	-	-	0.22	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	19	4	-	-	-	-	-	4	-
	定点当たり	0.04	0.05	-	-	-	-	-	0.17	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	319	75	7	7	9	5	9	31	7
	定点当たり	0.68	0.94	0.54	1.00	1.13	0.50	1.00	1.29	0.78
クラミジア肺炎 #3	報告数	13	6	-	1	-	-	1	4	-
	定点当たり	0.03	0.08	-	0.14	-	-	0.11	0.17	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	18	1	-	-	-	-	-	-	1
	定点当たり	0.04	0.01	-	-	-	-	-	-	0.11

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

埼玉県病原微生物検出情報 (月報) 2015 年 11 月号

2015 年 12 月 9 日発行

この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターの持つ病原体検査情報をまとめたものです。 **今月のコメント**

11月のインフルエンザ検体は6検体搬入され、A 香港型 (AH3) が1件とB型が2件検出されました。

## ウイルス分離状況

四類感染症 平成27年12月3日現在 (累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		9月	10月	11月	累計
A型肝炎	検体数	1			4
	A型肝炎	1			3
	検査中				
重症熱性血小板減少症候群	検体数		1		1
	SFTS 検査中				
デング熱	検体数	7	1	1	24
	デング	1	1	1	12
	ヒトバルボ B19	3			5
	検査中				

五類感染症 平成27年12月3日現在 (累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		9月	10月	11月	累計
咽頭結膜熱	検体数				6
	アデノ 1				1
	アデノ 2				1
	アデノ 4				1
	検査中				
インフルエンザ	検体数		1	6	73
	インフルエンザ AH3		1	1	45
	インフルエンザ B			2	17
	インフルエンザ AH1pdm09				
	アデノ 3				1
	ライノ				1
	ヒトメタニューモ				3
検査中				3	
感染性胃腸炎	検体数	5	2	8	81
	ノロ			1	20
	サボ	1			4
	アストロ				2
	ロタ (A)				3
	アデノ 1		1		2
	アデノ 2				2
	アデノ 5			1	1
	アデノ 40/41				5
	コクサッキー A10				1
	コクサッキー A16				1
	コクサッキー B3				1
	エコー 18		1		1
	パレコ				3
	サイトメガロ				1
	ライノ			2	3
	検査中			4	4
ヘルパンギーナ	検体数			1	10
	コクサッキー A2				1
	コクサッキー A6				3
	コクサッキー A9				1
	コクサッキー A10				2
	ライノ				1
	検査中				1
	検体数	7	3	1	39
	コクサッキー A6	4	3		16
	コクサッキー A9	1			1
コクサッキー A14				1	
コクサッキー A16				11	
パレコ	2			3	
エンテロ nt				1	
アデノ 1				1	
アデノ nt				1	
サイトメガロ				1	
ヒトヘルペス6	1			2	
ヒトヘルペス7				2	
ライノ				2	
検査中				1	
脳炎・脳症 (四類以外)	検体数	7	6	4	72
	ヒトヘルペス 6		1		3
	ヒトヘルペス 7				3
	パレコ				2
	ライノ		1		5
	RS	1			3
	単純ヘルペス 1				1
	アデノ 3	1			1
	アデノ 6				1
	アデノ nt				1
インフルエンザ AH3				1	
コクサッキー A16				1	
検査中				4	
麻疹	検体数		3		24
	麻疹				3
	ヒトバルボ B19				2
	ヒトヘルペス 6				1
	ヒトヘルペス 7				1
アデノ 31				1	
検査中					

五類感染症つづき

臨床診断名	ウイルス	検出月				累計
		9月	10月	11月		
風しん	検体数				7	
	風しん				1	
	ヒトヘルペス 6				1	
	エンテロ nt				1	
	EB				1	
検査中						
無菌性髄膜炎	検体数		19	6	3	86
	ヒトヘルペス 6					2
	ヒトヘルペス 7					5
	ムンプス		2	1		4
	水痘带状疱疹					2
	サイトメガロ		1			1
	コクサッキー A9					3
	コクサッキー A16					1
	コクサッキー B2					2
	コクサッキー B3					3
	コクサッキー B5					3
	エコー 9		4			5
	エコー 18					9
	エコー 30					2
	エンテロ nt		1			4
	パレコ			1		1
	ライノ		2			4
検査中		3	3	3	9	
流行性 耳下腺炎	検体数	2		1	6	
	ムンプス	1			1	
	EB				1	
	ライノ	1			1	
検査中				1		
その他	検体数	74	93	93	664	
	コクサッキー A6	1			7	
	コクサッキー A9				4	
	コクサッキー A10	1			1	
	コクサッキー A14				1	
	コクサッキー A16	1			1	
	コクサッキー B3	2			5	
	コクサッキー B4				4	
	コクサッキー B5				2	
	エコー 6		2		2	
	エコー 7	1			1	
	エコー 9				1	
	エコー 18	1			1	
	エコー 25				1	
	エンテロ 68	14	5		21	
	パレコ		2		7	
	アデノ 1	1	1		4	
	アデノ 2		1		1	
	アデノ 3		4	1	18	
	アデノ 54	1			10	
	アデノ 54				1	
	単純ヘルペス 1				2	
	ヒトヘルペス 6	2			32	
	ヒトヘルペス 7	2	4		29	
	水痘带状疱疹	1			2	
	インフルエンザ AH3				6	
	インフルエンザ B				1	
パラインフルエンザ 1		1		4		
パラインフルエンザ 3				1		
RS	8	22	8	23		
ヒトメタニューモ				57		
ライノ	13	30	4	29		
サイトメガロ	1	1		127		
コロナ				17		
ノロ				10		
ボカ			1	1		
ヒトバルボ B19				11		
EB		1		11		
検査中	8	8	58	4		

nt : not typed

## 細菌分離状況

平成27年12月3日現在

病原体名	分離月	9月	10月	11月	備考 (11月分)
三類	腸管出血性大腸菌 O157	17	5	3	H7(VT2):3
	腸管出血性大腸菌 O26	1	1	1	H11(VT1):1
	腸管出血性大腸菌その他	1			
	レジオネラ菌	2	1		
五類	百日咳菌			1	
	溶血性レンサ球菌	1			
	その他	1		3	CRE : 2*** <i>Escherichia coli</i> :1, <i>Enterobacter cloacae</i> :1 MDRP : 1*** <i>Pseudomonas aeruginosa</i> :1

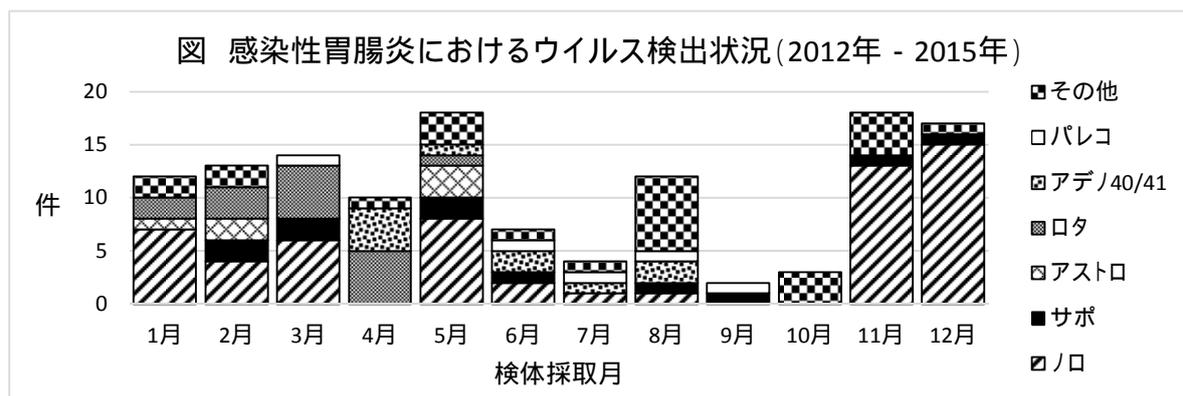
## 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎の患者は年間を通して発生していますが、例年11月上旬からその報告数は増加し始め、12月にピークとなる傾向があります。様々な病原体によって起こり、ウイルス性の胃腸炎ではノロウイルスとロタウイルスが多いと言われています。

県内で2012年1月～2015年11月に感染性胃腸炎患者から検出されたウイルスは、ノロウイルスが57件と最も多く、次いでロタウイルスの16件でした。その他のウイルスでは、サポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス40/41型、パレコウイルス等が検出されました(表)。月別の検出状況では、ノロウイルスは8割近い45件が11月～3月に検出されていますが、5月～8月にも12件が検出されました。ロタウイルス及びアデノウイルス40/41型が検出された時期は限定的で、前者が1月～5月、後者が4月～8月に検出されました(図)。

表 感染性胃腸炎における年別ウイルス検出状況(2012年 - 2015年)

	検体数	ノロ	サポ	アストロ	ロタ	アデノ 40/41	パレコ	その他
2012年	42	15	3	0	4	0	2	0
2013年	38	8	4	2	7	1	0	2
2014年	75	14	0	2	2	4	0	10
2015年	81	20	4	2	3	5	3	13
計	236	57	11	6	16	10	5	25



第49週の感染性胃腸炎は県全体で1,430人の報告があり、定点当たり報告数(8.88)は前週(6.58)より増加しました。また、今年の1月以降、新たな遺伝子型のノロウイルスが国内で検出されています。ウイルスの流行状況、遺伝子変異の状況を把握するためにも、病原体定点の先生方におかれましては、検体採取にご協力をお願いいたします。

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2015年 > 感染症の流行状況 2015年 第49週

感染症発生動向調査 2015年

[感染症の流行状況 2015年 第1週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第2週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第3週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第4週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第5週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第6週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第7週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第8週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第9週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第10週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第11週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第12週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第13週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第14週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第15週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第16週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第17週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第18週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第19週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第20週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第21週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第22週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第23週](#)

[感染症の流行状況 2015年 第24週](#)

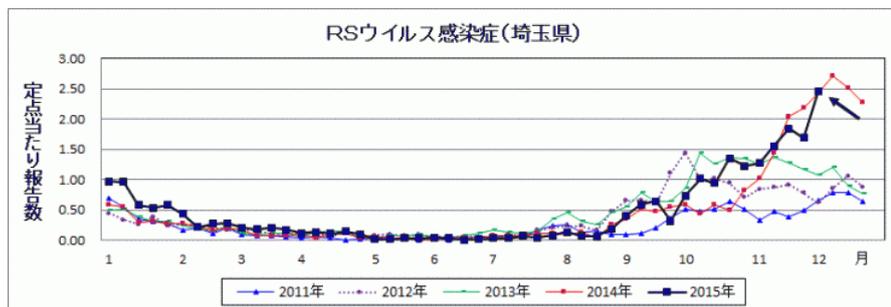
[感染症の流行状況 2015年 第25週](#)

感染症の流行状況 2015年 第49週

2015年第49週（平成27年11月30日～12月6日）の要点 平成27年12月9日

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、前週より大きく増加し、多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>			<a href="#">伝染性紅斑</a>		
<a href="#">RSウイルス感染症</a>			<a href="#">突発性発しん</a>		
<a href="#">咽頭結膜熱</a>			<a href="#">百日咳</a>		
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>			<a href="#">ヘルパンギーナ</a>		
<a href="#">感染性胃腸炎</a>			<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>		
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>			<a href="#">急性出血性結膜炎</a>		
<a href="#">手足口病</a>			<a href="#">流行性角結膜炎</a>		

\*1. 推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 \*2. 推移は2週間前からの傾向を示します。( :増減無し、 :増加、 :減少) \*3. 流行状況は今週の流行を示します。(小さい、 、 大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン

お問い合わせ

保健医療部 衛生研究所 感染症疫学情報担当  
郵便番号355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410番地1

お問い合わせフォーム

より良いウェブサイトにするためにみなさまのご意見をお聞かせください

このページの情報は役に立ちましたか？

- 1: 役に立った  2: ぶつう  3: 役に立たなかった